

研修テーマ

きいて かんじて つながろう

～思いや意図をもち、生き生きと表現する子どもの育成～

1. 日時と会場 平成29年6月6日（火）北栄町立大栄小学校
6月7日（水）倉吉市立河北小学校 湯梨浜町立羽合小学校
2. 講師 武蔵野ジュニア合唱団「風」指導者 前田 美子先生
3. 研修内容

全国各地でご活躍の前田先生のもと、教科書教材や今月の歌を通して、歌唱指導の方法を学んだ。

1日目の大栄小学校では、大人数の指導の中でも少人数や個人で表現する場を設定することで児童が自信をもって歌う姿につながることで、そのための指導の手立てについて学んだ。前田先生の子ども達への言葉かけは、もっと歌いたくなるような投げかけや褒め言葉がほとんどで、それが児童の心の栄養となり、次への活動につながることを、前田先生の直接指導の中で実際に示していただき、貴重な研修となった。



2日目の河北小学校では児童の歌声指導、羽合小学校では研究授業の指導助言と実技研修をしていただいた。

河北小3年生の学習では、歌詞のア行の言葉に印をつけ、その部分を手で叩いたり声に出して歌ったりすることで、発声の響きを良くする方法を学んだ。5年生の指導では、3度の和音の響きを安定させるために、何度も繰り返して歌い一人一人に自信をもたせること、高音部の人数を少しずつ増やしながら低音部と合わせることで和音の響きに児童が慣れてくることを教わった。

羽合小学校5年生の、思いや意図をもちながら歌い方を工夫させる授業では、伴奏の旋律の動きに注目させたり、歌詞に表れる波の動きを体で表現させたりといった前田先生の働きかけにより、児童の歌声が変わっていくようすを目の当たりにした。歌唱指導の神髄を学ぶ研修となった。

この研修を通して、児童が歌詞の表す様子を想像してそれを歌声で表現するために、指導者が適切な問いかけを行ったり、作曲者の意図や仕掛けに気付かせるような手立てを行ったりすることが大切であることを学んだ。また、音楽の学習を通して子どもをどう育てたいのかという目的を明確にもち指導に当たることの大切さや、教師が「～しなさい。」と指示するのではなく、活動を通して子どもたちに気づかせたり表現させたりすることが、子どもたちの主体的な学びと育ちにつながることを学んだ。